

「神に賞賛される生き方 善い行いの実践」

ピリピ4：8~10

DOOR TO DOOR

『DOOR TO DOOR』という映画が紹介されました。脳性麻痺のビル・ポーターという人の人生の物語です。彼は営業の仕事につきますが一番売れない地域に行かせてくださいと志願します。様々な苦難や葛藤がありました。1日も休まず忍耐を続け24年後にはトップセールスマンになります。私達は言葉に注意しなければなりません。語る言葉は多くの人にあなたという人物を定義づけていきます。軽い人、チャライ人、嘘の多い人、信頼できない人、何故そのように言われるのかというと全て言葉にあるわけです。どの様に言葉を選んでいきますか。聖書の中には言葉に対して一時も黙っていない、悪であると言っています。特にリーダーと言われる人達。家族の父親、母親、職場でのリーダー、クラスでのリーダー、友達との後輩、先輩全てがリーダーにあたります。少しでもその人よりも責任があると思った時点で言葉を選ばなければなりません。私達はどの様に言葉を選ばないといけないのかみていきます。ピリピ書のストーリーを学んできました。今日の箇所は与えること、実践ですあなたが善い聖書の教えについてどうやって実践していくかを学んでいきます。

ビルのお母さんは息子に対して真実を伝えようとしていました。息子が就職が決まった時お母さんは神を賛美しました。これは真実が起こったからです。神の真実は変わらないということです。神は人を取り扱って神の愛が表された時神は人に脱出を与えるという真実があります。なぜならば愛だからです。

私達の人生には沢山の問題が起きてきます。こうなって欲しいと思っていることではない事が起こりますが、そんな時私達が神の真実を知っていれば神様はこのことを通して必ず私達に何かを伝えて益としてくださるので。これは聖書が与えられている事の根拠です。多くの歴史の先人達が道を乗り越えた時どうなったかが書いてあるからです。

このお母さんは息子に対して自分がいつまでも生きられないということをよく理解していました。この息子が変わった瞬間は自立した瞬間だったのです。お母さんがアルツハイマーになって記憶が薄れていく、その時に息子は変わろうと決めました。私達が子供達の次の世代に伝えられる事は何かと忍耐と自立です。忍耐と自立があればこれ以上伝える事はありません。逃げなければ神様はその人に働いてくれます。自分の足で立とうとすればそれでいいのです。問題が起こる時に私達は学びます。その問題の回避を誰かがすると成長できません。自分で解決出来るようにして、どうしても乗り越えられない問題の手伝いだけはします。それが私達のすべき事で、何故そうするのかと言うと神様がそうしたからです。有和のテーマに立ちながら善い行いをどうやって行っていくかを考えていきます。学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさいと言っています。実行しなさいと言った実行のチャンスが次の御言葉にかかってきます。

ピリピ4：10

『私のことを心配してくれるあなたがたの心が、このたびついによみがえってきたことを、私は主にあって非常に喜びました。あなたがたは心にかけはいたのですが、機会がなかったのです。』(ピリピ4：10)

彼らはパウロに一度ならず二度も支援をしてくれました。ピリピの教会は非常に与える教会でした。しかし、今までチャンスがなかったと言っていました。チャンスが起こった時にあなたは心に掛けていた事をしてくれたと言いました。クリスチャンは良いことを言います。職場でもとてもいい発想が出てくるはずなんです。そして、問題を見つけると気づきます。ところが中々上手くいきません。何故かという、実践を相手にあなたのやり方は聖書的じゃないと求めてしまいます。

そこでパウロはそうゆうことをさせなさいと言ったのではなく実践をあなたがしなさいと言ったのです。どのように実践をするのかというとビルのお母さんは息子に就職先を斡旋したのではなく、手取り足取り教えたたのではなくお母さんがしたことはバンに忍耐と書いて最後まで忍耐しなさいと教えました。お母さんは見ていたのは正しい目線でした。

自分は居なくなり息子を支える人は居なくなると。お母さんはその場しのぎをしたのではなく息子が自立して生きれる道を伝えようとしたのです。絶対に出来る事だけを伝えました。息子は忍耐という言葉が絶対できないという言葉に結びついて結果、実を結びました。私達がしなければいけないこと、教会が毎週していること、この状況を見つければよいとする行為。お母さんがとる行動を一人一人に伝えるからです。私達は週に一回起こった事を顧みながら礼拝に参加して考えるのです。本当に自分は与えられたかを。

人がしない事をする生き方

賞賛に値するとは人には出来ない事を行ったからです。彼は映画になりました。そして、彼のストーリーは日本にきました。日本でも映画になりました。これが称賛されるということです。何故称賛されたのかということお

母さんが人には出来ないことをやり遂げてそれによって息子が人には出来ないことをやり遂げて結果多くの人が息子を普通の健常者である人を超えるという奇跡が起きたからです。この映画が教えたいことは何か問題があるから出来ないのではなくその問題に対して文句を言っているから出来ないと教えているのです。

暗いと不平を言うより進んで明かりをつけましょう。

渡辺和子さんが残した言葉です。称賛に値するという事は人には出来ない事を行ったという事です。私達が他の人と違う行動をとった時に起こるのです。ですからクリスチャンは人に教えるのが仕事ではなく、人がやっている事と違う道を選ぶ決断できるのは聖書に

書かれている狭い門から入りなさい。滅びにいたるは門は大きくその道を見出す者は稀であるという言葉に全てかかっています。狭い門とはラクダの針の穴という門がありました。イスラエルにはラクダの針の穴という門があります。頭を下げてへりくだって通らなければならぬ道ということ。戦争の為に造られたのですが、イスラエルの民は門を用いて子供達に教えました。小さな正しい道は頭を下げてへりくだって通らなければならぬと教えました。戦争の為に造った建物を子供達に教える時にこれは戦争での方法ではなく私達が人生で正しい道を見つける為の方法だと教えるのです。このように教育というのは私達が子供達に身をもって受けさせる事を教えられるかどうかなのです。ビルのお母さんがとった行動は正しくこの行動だったので、実を結びました。

やっちはいけないことをやらない

心にかけていてやっちはいけないことをいざという時にやっちは意味がありません。皆さんが一番弱い事は何かでしょうか。あなたは分かっているはずですが自分の言われている弱いところを後回しにしている人は上手いくはずがありません。ですから、心にかけているのですから実践する。良い事も悪い事も同じです。悪い事ならやらない。弱点であるなら克服する為に何かをする。良い事であるなら言うだけでなく実践する。

私達は失敗することで問題点に気づきその人は考え方が変わりどれだけ回りがその人に寄り添って一緒に成功を見せてあげることで。成功とは上手いくことではなくてその道を選ばなかった結果得た恵みを見せてあげることで。これがとても大事です。失敗して止めてしまう人は自信がつくことなく終わってしまいます。

御霊と共にある人生

そこで私達は明かりをつければいいのです。問題が起きる、失敗する、上手くいかないそんな時は真っ暗になった状態です。種を蒔くために種を備えておく必要はありません。パウロは自分がやって子供達に見せたと書いてあります。私がお母さんがたに教えたことをやりなさいそうすると平和の神があなたがたとともにいてくださいます。平和の神とはあなたを通して働く御霊です。内住の御霊は平和をつくります。あなたを通して平和がもたらされる為に聖霊様と一緒にいることパウロが教えたことはピリピ書なのです。試練の中で御霊と共にいなさい。奉仕の中で御霊と共にいなさい。信じることで御霊と共にいる。与える事で御霊が伴います。あなたが試練で学んだこと、奉仕の中で学んでいること。そして、信じる中で学んだことを与えて実践しなさいと伝えています。平和の神は全てのやり方を私達に教えて祈ること、御霊と共にいること、イエスキリストが行ったようにアンダースタンドに立って人々に信頼を得ること。それによって人々を造り変えようとしています。私達ももし御言葉を聞き、御霊と共にいることが出来れば次の世代はあなたに増して良いしもべになっていくことで

さいごに...

イエスキリストが選んだ道は人を変えようとするのではなくて自分が人々に姿を見せるという生き方だったのです。聖書は生き様が描かれています。神から語られた御言葉に生きようとした人と、背いて生きた人の生き様が記録されているのです。それが神の言葉として私達に残っています。聖書はイエスキリストの生き様を見せることで私達は学んだのです。パウロは言います。そのイエスキリストに学んだ私の生き方を学んで行いなさい。失敗者だったパウロがもう一度敗者復活してプロテスタントは敗者復活なのです。あなたはどんな状況でもやり直せます。しかし、やり直す人に大事なことは同じ過ちを繰り返さないことです。過ちを犯してしまつたらもう一度底辺に立って神様の前に悔い改めることを貫くことです。そうすると平和の神が失敗者のあなたに共にいてあなたを祝福して下さることを知ります。

(要約者：富岡 美千男)

(2022年1月16日)